令和９(2027)年度
東京大学大学院医学系研究科

医科学専攻修士課程

入学試験案内

東京大学大学院医学系研究科 医科学専攻への誘い

本学医学系研究科・医科学専攻・修士課程は、大学での学部・専攻を問わず、広く医学の基礎的分野の研究者・教育者の養成を行い、基礎医学研究を先導する未来のリーダーとなる人材を修士・博士課程の合計 6 年間をかけて育成することを目的に、平成 11 年度に設立されました。現代の医学研究において医学以外のバックグラウンドを持つ研究者が果たす役割はきわめて大きく、医科学専攻の教授・スタッフにも医学部以外の学部出身者が数多く含まれています。医学系研究科には博士課程から入学することももちろん可能ですが、修士の段階から系統的に医学知識を身につけ、大きく発展して欲しいという期待のもとに医科学専攻修士課程は設置されました。幸いにも、これまで非常に優秀な人材が本専攻に集い、巣立った後も様々な医学研究領域で将来を嘱望される若手研究者として活躍しています。

本修士課程の特徴のひとつは、入学前に配属教室を決めておくことも、決めないで入学することもできるという柔軟性にあります。修士学生に対しては、医学系研究科、医学部全体の教官が協力して指導に当たります。配属教室を決めていない学生は、4 月から 7 月にかけて医学各分野の講義と実習ならびに各研究室の内容の紹介を受けた後、8 月までに配属を決めることになります。このシステムにはいくつかの長所があります。一つは最初から各講座に割り振られず一緒に講義実習を受けることで、修士学生間に連帯感が生まれることです。学生は各教室に分かれた後も、お互いに生活や研究の交流を活発に続けることができます。これは博士課程からでは得難い貴重な絆です。第二に、学生も教師もお互いをより身近で理解することが出来、その分、納得のいく教室選びが可能となります。各研究室に配属後も、週一回は共通ゼミナールがありますし、希望すれば他の分野の実習も可能です。学年によってはコンパだけでなく、合宿旅行まで楽しんでいます。

現代の医科学、生命科学は多様性に富むと同時に奥深い領域です。分子構造・シグナル・発生などの基礎生物学から、病気の発症機序（病因）と治療、ゲノム医学、脳科学・予防医学などに至る幅広い分野をカバーしています。若いうちからあまり狭い研究領域に閉じこもるのは必ずしも賛成できません。研究分野を柔軟に変えうること、また、 周辺領域の幅広い知識を身につけることが大切です。医科学専攻は学生を未来の宝だと考えています。セミナー、輪読会、共通講義や共通実習などで 幅広い知識と、信頼しうる技術を身につけ、修士・博士の 6 年を終了した後に、どの様な分野に進むかを自らが決める自立した研究者になるための素地作りを誠心誠意サポートしたいと考えています。卒業後には、ポストドク、海外留学、研究職など多様な選択の道が拓かれます。

医科学修士課程は、生命現象への好奇心にあふれ、協調性を持ち、気力・体力の充実した学生を求めています。自分が「将来の基礎医学を背負って立つ」姿を想像してみてください。そんな未来に魅せられる自分を見出すことができたならば、本修士課程に是非応募してください。

令和９(2027)年度医科学専攻修士課程入学者選抜の実施方法について

令和 9(2027)年度入学者の選抜を下記により実施します。出願に際して充分注意してください。

記

１．受入指導教員について

(1) あらかじめ指導教員を決めて受験することも、指導教員を決めずに受験することもできます。いずれの場合も興味のある研究室をできるだけ訪問するようにしてください。（ただし、医科学研究所と定量生命科学研究所は、（２）を参照。）入学試験は、指導教員を決めて受験する場合も、決めないで受験する場合も公平に実施されます。

(2) 指導教員一覧に記載された教員を指導教員としてあらかじめ決めて受験することができます。各指導教員の受け入れ可能人数は、指導教員一覧にある「専攻分野」毎に「あらかじめ指導教員を決めて受験し入学する者」及び「入学後ローテーションで指導教員が決まる者」を合計して学年毎に「２名以内」となります。

あらかじめ指導教員を決めて受験する者は、出願前に必ず希望する指導教員と連絡を取って、希望する指導教員の研究分野および指導方針が自分の希望と合っていることを確認してください。さらに、希望する指導教員の研究室を訪問し、教員が受入を承諾した場合は、別紙「指導教員受入確認票」の受入確認教員氏名欄に署名をもらい出願し、願書の指定された箇所の「志望する研究室」の「有り」にチェックを入れ、専攻分野名と希望する指導教員を記入してください。

なお、協力講座である医科学研究所および定量生命科学研究所の教員を指導教員としてあらかじめ希望することも可能です。ただし、**出願時に指導教員として指名できる人数は、各研究所につき「２名まで」としています。**それぞれの研究所の担当教員が人数の調整を行うため、医科学研究所および定量生命科学研究所の教員を指導教員として出願しようとする者は、希望する指導教員に連絡を取るとともに、**担当教員にも連絡し、別紙「指導教員受入確認票」の受入確認教員氏名欄には担当教員に署名をもらってください。**担当教員は医科学研究所については岡田尚巳教授(t-okada@ims.u-tokyo.ac.jp)、定量生命科学研究所については岡崎拓教授(tokazaki@iqb.u-tokyo.ac.jp)です。

(3) 指導教員を決めずに受験する者は、願書の指定された箇所の「志望する研究室」の「無し」にチェックを入れてください。なお、指導教員を決めずに受験する者も、研究指導を受けたいと思う教員がすでにいる場合には出願前に連絡を取っておくようにしてください。

(4) 出願前の希望指導教員との連絡の機会として、５月１６日（土）に「医科学専攻修士課程入学者ガイダンス」を開催しますので、受験を希望する者はできるだけ参加するようにしてください。詳細は、医科学専攻のホームページをご覧ください。
https://www.m.u-tokyo.ac.jp/mms/guidance.html

(5) 指導教員を決めて受験し合格した者は、入学後は原則として指導教員の変更は認められません。

(6) 指導教員を決めずに受験した者は、入学後に実施されるローテーション（研究室訪問）の後に指導教員を決めることになります。ただし、受入人数の制限から第一希望の教員の指導を受けられないことがあります。

(7) 本専攻では、入学後、決定された研究室から、学内外の他研究室等へ研究指導の委託を行うことは、原則として認められません。

２．志願理由書について

本専攻を志願した理由を、Ａ４判２枚にまとめ、２枚とも左上に「志願理由書、氏名、ページ数」を記載して作成し、WEB 出願システムよりアップロードすること。

３．試験科目について

入学試験は、筆記試験（一次試験：専門科目）と口述試験（二次試験）で構成されます。

筆記試験科目のうち「外国語」については、筆記試験実施を取りやめて TOEFL 等の民間試験スコアの提出に変更されております。詳細は、別添「修士課程入試の外国語（英語）について」参照。

（1）**専門科目Ⅰ**

以下に示す基礎問題から１問、専門総合問題から２問の計３問を解答する。

1a. **基礎問題**

基礎問題は、生物学に加え、物理学、化学の３科目の中から１科目を選択して解答する。出題範囲はおおよそ以下の通り。

･生物学

基本的な生命科学の理解をしているかどうかを問う問題。内容としては、Alberts et al, Essential Cell Biology (日本語訳　Essential 細胞生物学)の基本的な部分を想定している。

･物理学

基本的な物理学を理解しているかを問う問題。古典力学、波動、熱力学、電磁気学、現代物理学（２０世紀の物理学）の範囲から出題する。

･化学

基本的な化学を理解しているかを問う問題。物理化学・無機化学・分析化学分野から５割程度、有機化学分野から５割程度出題する。問題の多くは大学の一般教養で習う程度の基本的なものとする。内容としては、物理化学・無機化学：アトキンス物理化学(東京化学同人)、基本無機化学(東京化学同人）など；有機化学：マクマリー有機化学、ウォーレン有機化学、ボルハルトショアー現代有機化学、スミス有機化学、ジョーンズ有機化学などを想定している。

1b. **専門総合問題**

専門総合問題は、以下の分野の６問から２問を選択して解答する。

･細胞生物学･分子生物学・病理学（２問）

基礎問題の生物学とも重複しますが、Alberts et al, Essential Cell Biology （日本語訳 Essential 細胞生物学）のより専門的な部分からも出題することがある。

･生理学・脳科学（２問）

分子・細胞レベルを中心とした基礎的な生理学や分子、細胞、回路レベルを中心とした脳科学に関する問題を出題する。

･統計学（１問）

生物統計学の基本となる理論を理解しているかを問う問題。

･Chemical Biology（１問）

生物学、医学分野の課題を、化学的な発想、技術によって解決する研究分野であるケミカルバイオロジーに関する問題を出題する。具体的には、イメージング、摂動、スクリーニング、オミクス解析、生体機能解析などの原理、利点、問題点やその適用事例を中心に、幅広い分野に対する理解度を問う問題を出題する。

（2）**専門科目ⅡⅡ（小論文）**：　与えられたテーマについて１時間で書く問題。

（3）**口述試験**：　これまでの学部時代の活動や、研究に対する熱意などを面接官が判断する。

医科学専攻の教育研究上の目的

東京大学大学院医学系研究科医科学専攻修士課程では、医学系の最先端研究を遂行するために必要な基礎学力を具えており、生命現象のしくみの解明・疾患の克服に寄与し新たな知的価値を創出できる国際的リーダーを養成することを目的とする。

令和９(2027)年度医科学専攻修士課程入試を受験する皆さんへ

医科学専攻修士課程では、入学して最初の３ヶ月間に基礎医学の講義・実習（注①）をおこない、その後、指導教員のもとで研究を開始します。学生は、その成果を修士論文にまとめて当課程を修了することになりますが、修了後はそのまま医学博士課程へ進学することが求められています。

あらかじめ指導教員を決めて入学した学生は、入学後、基礎医学の講義・実習を受けながら希望する指導教員のもとで研究を始めることもできます。指導教員を決めずに入学した学生は、入学後に行なわれるローテーション（注②）を経て、指導教員を決定することになります。

入学後の流れは下記のようになりますので、参考にしてください。

記

〔入学から修了するまでの流れ〕

１年次

４月１日	医科学専攻修士課程入学
初旬	入学ガイダンス
～６月下旬	前期授業（講義・実習等）
～７月下旬	ローテーション（指導教員を決めないで入学した学生による研究室訪問）
８月下旬	指導教員を決めないで入学した学生に対する指導教員の決定（内定）
１０月１日～	研究室による演習・実習

２年次

４月～２月上旬	研究室による演習・実習、病院実習（希望者のみ）
７月	医学博士課程入試出願
１０月中旬	医学博士課程入試受験　（医科学専攻修士課程修了込者は筆記試験免除）
２月上旬	修士論文発表会
３月	医科学専攻修士課程修了

４月	医学博士課程進学

注①　授業は、基礎医学に関する講義と実習、病院実習（希望者のみ）で構成されています。講義と実習は基礎医学系研究室が担当し、基礎医学の知識を教授します。病院実習は、数班に分かれて医学部附属病院を訪れ、実際に臨床の場を見学して医学の重要さを経験するものです。

注②　ローテーションとは、指導教員を決めないで入学した学生が、上記①の授業を通して興味を持った研究室を訪問し、実際の研究室の雰囲気、研究内容および指導方針を確認するための期間です。なお、指導教員を決めて入学した学生は、指導教員のもとで研究を開始します。

注③　ただし、講義・実習内容については、今後変更する可能性があります。

注④　病院実習希望者は、実習前に抗体検査が必要です。詳細は入学ガイダンス等で案内します。

【2027 年度入試受験者用】 ※Please use this format.

医科学専攻修士課程

指　導　教　員　受　入　確　認　票/Confirmation of Research Supervisor's Acceptance

研究室名　Lab's name	訪問日 Date of visit to the lab year　month　day 2026 年　月　日（　）
受験者氏名（自筆） Applicant's name (Signature)	（生年月日 Date of birth：　/　/　）
学歴 Educational background	高校卒業から記入してください。Start from graduation of high school (Date: yyyy/mm/dd) /　/　高等学校卒業
研究歴 Research history	
研究上の特記事項 Special remarks about research (if any)	
研究したい研究内容及び希望する指導教員 Content of research you plan to conduct and your prospective supervisor's name	〔研究内容 Content〕 〔希望指導教員 Prospective supervisor〕
上記受験者が、2027 年度東京大学大学院医学系研究科医科学修士課程入学試験に合格した場合は、**受入可能な枠の範囲内であることを確認の上、**受入を認めます。 受入確認教員氏名/Professor's signature：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	

注 **【受験生の方へ】以下をご確認のうえ、□に✔願います。**Confirm the following items and tick the boxes.

□ 研究室訪問時に、希望指導教員から受入内諾を得た場合、本票を希望指導教員に渡してください。
Please submit this form to prospective supervisor if he/she agrees to supervise you.

□ **医科学研究所（医科研）または定量生命科学研究所（定量研）の教員を指導教員として指名しようとする方へ：** 各研究所の指導教員指名枠は、研究所全体で**２名**です。希望者がこの枠を上回った場合、希望どおりの指導教員を指名できないことがあります。
指名枠は研究所単位で管理するため、出願にあたっては希望する指導教員に加え、下記の担当教員にも必ず連絡してください。受入確認教員氏名欄には担当教員の署名が必要です。
医科研：岡田尚巳 教授（t-okada@ims.u-tokyo.ac.jp）
定量研：岡崎拓 教授（tokazaki@iqb.u-tokyo.ac.jp）
Applicants wishing to designate a faculty member at the Institute of Medical Science (IMS) or the Institute for Quantitative Biosciences (IQB) as their prospective supervisor: Each institute has an application-stage quota of **two** across all laboratories within the institute. If the number of applicants exceeds this quota, you may not be able to designate your preferred prospective supervisor.
As the quota is managed at the institute level, applicants must contact both their prospective supervisor and the liaison faculty member listed below. The signature of the liaison faculty member is required in the "Name of Confirming Faculty Member" section of this form.

- IMS: Professor Takashi Okada (t-okada@ims.u-tokyo.ac.jp)　　※Please use this format.
- IQB: Professor Taku Okazaki (tokazaki@iqb.u-tokyo.ac.jp)

☐ 本票を提出した受験者は、入学後は原則として指導教員の変更は認められません。
As a general rule, those submitting this form are not allowed to change their research supervisor after enrollment.

【指導教員の先生へ】以下をご確認のうえ、□に✔願います。

☐ 受入を承諾した教員は、正本を受験者に渡し、控えとしてコピーを１部取ってください。

☐ 受入確認教員が本確認票にサインをできるのは２名以内とします。また、一年度内に受け入れることができる医科学修士の学生数は２名までですのでご留意ください。

☐ **医科学研究所（医科研）および定量生命科学研究所（定量研）の先生へ：**
各研究所の枠が２名ですので、事前に各研究所の担当教員(下記)にご連絡頂き、人数の確認調整を行ってください。受入確認教員欄は担当教員の署名となります。
医科研：岡田尚巳 教授（t-okada@ims.u-tokyo.ac.jp）
定量研：岡崎拓 教授（tokazaki@iqb.u-tokyo.ac.jp）

令和9(2027)年度

東京大学大学院医学系研究科〔医科学専攻修士課程〕受入予定指導教員一覧(2026.04.10現在)

分子細胞生物学

専攻分野	指導教員	研究分野	所属講座
細胞生物学	教授　岡田　康志 e-mail: yokada@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-0959	細胞生物物理学、ライブセルイメージング、一分子計測	細胞生物学・解剖学
	准教授　Donald Cameron	酵素学, 分子腫瘍学 , 分子動力学	定一オンコプロテイン動態研究分野
生体構造学	教授　吉川 雅英 e-mail: mkikkawa@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3338	上皮構造の細胞生物学、クライオ電子線トモグラフィー	細胞生物学・解剖学
神経細胞生物学			
先端構造学	教授　ラドスティン・ダネフ e-mail: rado@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3413	クライオ電子顕微鏡による構造生物学	先端構造学
分子生物学	教授　水島　昇 e-mail: nmizu@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3440	オートファジーの分子機構と生理機能	生化学・分子生物学
代謝生理化学	教授　村上　誠 e-mail: makmurak@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-1431	脂質による生体内環境整備機構の解明	生化学・分子生物学
遺伝情報学	教授　岡田　随象 e-mail: yuki-okada@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-1860	大規模ゲノミクス解析、遺伝統計学、バイオインフォマティクス	生化学・分子生物学
分子病態医科学			

機能生物学

専攻分野	指導教員	研究分野	所属講座
統合生理学	教授　大木　研一 e-mail: kohki@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3459	大脳皮質視覚野の神経回路と情報処理の研究、２光子Ｃａイメージング	生理学
細胞分子生理学	教授　松崎　政紀 e-mail: mzakim@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3467	前頭前野・意思決定、運動学習回路、BMI	生理学
神経生理学			
細胞分子薬理学	教授　廣瀬　謙造 e-mail: kenzoh@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3414	神経細胞機能の構築原理、細胞生理学、薬理学、ケミカルバイオロジー	薬理学
システムズ薬理学	教授　上田　泰己 e-mail: uedah-tky@umin.ac.jp tel: 03-5841-3415	睡眠・覚醒リズムのシステム生物学・合成生物学	薬理学
構造生理学			

病因・病理学

専攻分野	指導教員	研究分野	所属講座
人体病理学・病理診断学	教授　牛久　哲男 e-mail: usikut-tky@umin.ac.jp tel: 03-5841-3344	消化管病理学，病理診断学	病理学
	教授　高田　龍平 e-mail: tappei-tky@g.ecc.u-tokyo.ac.jp tel: 03-3815-5411（内線30750）	臨床薬理学、臨床薬物動態学、生活習慣病とトランスポーター	病理学（病－薬剤部）
	特任教授　鯉沼　代造 e-mail: koinuma@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3359	シグナル伝達機構研究、トランスクリプトーム解析	病理学
分子病理学	教授　山田　泰広 e-mail: yyamada@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3585	個体レベルでのエピゲノム医科学研究	病理学
	准教授　山田　洋介 e-mail: yoyamada@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3411	胸腺病理学、実験病理学	病理学
微生物学	教授　竹田　誠 e-mail: mtakeda@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3408	呼吸器ウイルスの病原性発現機構	微生物学
	准教授　加藤　大志 e-mail: hirokato@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3404	パラミクソウイルス感染におけるウイルス-宿主相互作用の理解	微生物学
感染制御学	教授　堤　武也 e-mail: takeyatsutsumi@g.ecc.u-tokyo.ac.jp tel: 03-3815-5411（内線35335）	肝炎ウイルスによる病態発現機構の解析	微生物学
免疫学	教授　高柳　広 e-mail: takayana@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3375	自己免疫疾患の病態、および骨免疫学に関する研究	免疫学
動物資源学	教授　饗場　篤 e-mail: aiba@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3638	神経回路形成の分子遺伝学、マウス発生工学、変異マーモセット作製による精神疾患モデル動物の樹立	疾－動物資源学

生体物理医学

専攻分野	指導教員	研究分野	所属講座
放射線分子医学	准教授　細谷　紀子 e-mail: nhosoya@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3505	DNA修復を標的とした癌治療の研究	疾－放射線分子医学
システム生理学	准教授　山本　希美子 e-mail: kyamamoto@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3564	メカノバイオロジー、バイオメカニクス、循環生理学	医用生体工学
生体機能制御学			
生体情報学	教授　浦野　泰照 e-mail: uranokun@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3601	蛍光・増感・発光プローブ開発, 生細胞・動物個体イメージング, in vivoがんイメージング・治療	医用生体工学(薬学系研究科)
	准教授　小嶋　良輔 e-mail: kojima@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3568	合成生物学、細胞外小胞、蛍光・発光イメージング、がん診断・治療、ドラッグデリバリー、タンパク質工学	医用生体工学
医療材料・機器工学	教授　原田　香奈子 e-mail: kanakoharada@g.ecc.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-6289	医療機器・手術支援ロボット・手術手技評価	疾－医療材料・機器工学

脳神経医学

専攻分野	指　導　教　員	研　究　分　野	所　属　講　座
神経病理学	教　授　　齊藤　貴志 e-mail: tsaito@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3543	認知症などの神経変性疾患の発症機構の解明に資する研究	基礎神経医学
神経生化学	教　授　　尾藤　晴彦 e-mail: hbito@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3559	長期記憶・可塑性の分子機構、ニューロンのシグナル伝達	基礎神経医学
こころの発達医学	教　授　　小池　進介 e-mail: c-koike@g.ecc.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5800-8664	脳画像解析、精神疾患ヒト脳病態、思春期発達	統合脳医学

社会医学

専攻分野	指　導　教　員	研　究　分　野	所　属　講　座
衛　生　学	教　授　　石川　俊平 e-mail: ishum-prm@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3434	がんゲノミクス・バイオインフォマティックス	医－社会予防医学
健康環境医工学	教　授　　村上　誠 e-mail: makmurak@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-1431	脂質による生体内環境整備機構の解明	疾－健康環境医工学
医工情報学	准教授　　今井　健 e-mail: imai@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-3454	医用人工知能、医療データ解析、次世代電子カルテ、医療情報の標準化	疾－医工情報学
医療情報学	教　授　　河添　悦昌 e-mail: kawazoe@m.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5800-8685	医療情報システム、医療データ解析、医療AI、医療自然言語処理	医－医療情報学分野

その他の専攻分野

専攻分野	指　導　教　員	研　究　分　野	所　属　講　座
臨床医工学	教　授　　鄭　雄一 e-mail: tei@tetrapod.t.u-tokyo.ac.jp tel: 03-5841-8843	骨軟骨生物学・再生医学、バイオマテリアル工学	疾－臨床医工学 （工学系研究科）

疾　－　疾患生命工学センター

この指導教員一覧については、今後、内容が変更されることがある。更新後の情報については、本研究科Ｗｅｂサイト内のホーム＞入進学希望の方へ＞大学院医学系研究科 のページ
http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html　に掲載するので、そちらを確認すること。

協力講座（医科学研究所、定量生命科学研究所）

医科学研究所および定量生命科学研究所の教員を指導教員として出願しようとする者は、希望する指導教員に連絡を取るとともに、担当教員にも連絡し、別紙「指導教員受入確認票」の受入確認教員氏名欄には担当教員に署名をもらうこと。

医科学研究所

担当教員　岡田 尚巳 教授 (t-okada@ims.u-tokyo.ac.jp)

専攻分野	指導教員		研究分野	所属講座
分子生物学	教　授	岡田　尚巳	ウイルスベクター、神経筋疾患の分子病態解明と遺伝子細胞治療	科－分子遺伝医学
分子病理学	教　授	古川　洋一	癌の発生、進展のメカニズムの解明、ゲノム解析	科－先端医療研究センター
	教　授	山梨　裕司	細胞内シグナル伝達機構とその破綻による疾患の分子病態	科－腫瘍抑制
	教　授	柴田　龍弘	ゲノム解析による病態の理解	科－ゲノム医科学
	教　授	武川　睦寛	生体内シグナル伝達の制御と疾患発症機構の解明、分子診断・治療法開発	科－分子シグナル制御
	教　授	真下　知士	ゲノム編集、ヒト化動物、遺伝子治療	科－実験動物研究施設
	教　授	西村　栄美	老化、がん、組織幹細胞の研究	科－老化再生生物学
	教　授	山﨑　聡	幹細胞制御研究から細胞治療、遺伝子治療の開発へ	科－細胞制御
	准教授	山内　茜	生体内シグナル伝達機構と難治性疾患におけるその破綻に関する研究	科－腫瘍抑制
	准教授	小林　妙子	成体神経幹細胞、組織幹細胞の休眠制御、プロテオスタシス	科－タンパク質代謝制御
外科病理学	教　授	谷口　英樹	再生医療、移植外科学	科－再生医学
微生物学	准教授	一戸　猛志	インフルエンザウイルス感染に対する免疫応答の制御	科－感染症国際研究センター
感染制御学	教　授	川口　寧	ウイルスの増殖および病原性発現機構の研究	科－ウイルス病態制御
	教　授	佐藤　佳	システムウイルス学、実験ウイルス学	科－システムウイルス学
免疫学	教　授	岩間　厚志	造血幹細胞・造血器腫瘍のエピジェネティクス	科－幹細胞分子医学
	教　授	石井　健	ワクチンの基礎と臨床	科－ワクチン科学
	教　授	Cevayir COBAN	宿主病原体相互作用	科－マラリア免疫学分野
	教　授	長谷　耕二	腸内細菌による免疫修飾作用と疾患制御に関する研究	科ー共生生物学分野
	准教授	長村　登紀子	臍帯血・臍帯由来細胞を用いた免疫・再生医学	科ーｾﾙﾌﾟﾛｾｯｼﾝｸﾞ輸血部

定量生命科学研究所

担当教員　岡崎 拓 教授 (tokazaki@iqb.u-tokyo.ac.jp)

専攻分野	指導教員		研究分野	所属講座
生体構造学	准教授	堀越　直樹	エピジェネティクス、高次クロマチン形成機構の解明	定－クロマチン構造機能
神経細胞生物学	教授	奥山　輝大	社会性行動の神経科学・自閉症の病態解明	定－高度細胞多様性研究センター
遺伝情報学	教　授	白髭　克彦	ゲノム機能構造学	定－ゲノム情報解析研究分野
	准教授	中戸　隆一郎	データ駆動型ゲノム情報解析、ゲノム立体構造解析、1細胞解析	定－大規模生命情報解析
分子病理学	教授	齊藤　博英	合成生物学、生命工学、RNA創薬、RNA-Protein 複合体、iPS細胞、細胞制御、細胞・遺伝子治療、再生医療	定－RNP生命工学研究
免疫学	教　授	新藏　礼子	抗体遺伝子編集機構の研究、腸内細菌とIgA抗体の相互作用	定－免疫・感染制御
	教　授	岡崎　拓	自己免疫とがん免疫の分子細胞生物学	定－分子免疫学
	准教授	岡崎　一美	自己免疫とがん免疫の分子細胞生物学	定－分子免疫学

この指導教員一覧については、今後、内容が変更されることがある。最新版の情報は、本研究科Webサイト内のホーム＞入進学希望の方へ＞大学院医学系研究科 のページ(http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html)で確認すること。